

人間関係づくり実践モデル事業 報告書

周防大島町立 安下庄小学校

1 学校の概要

(1) 地区の概要

本校のある安下庄地区は三方を山に囲まれ一方を海に面している。気候は温暖で冬は山口県でもっとも温暖な地域として知られている。四季折々の景色も美しく子どもたちは豊かな自然に恵まれて生活している。しかし、近年の高度成長により生じた若者の都市志向は衰えをみせず、地区の過疎化・高齢化が一段と進んだ。児童数も減少の一途をたどっていたが、ここ数年大きな変化は見られない。

(2) 学校の概要

本校は、明治6年2月に開校され、昭和61年3月に校舎改築を行った。健康教育に力を入れ、昭和49年に学校給食優良校として文部大臣表彰を受けたのを始め、県教委から準健康優良校として表彰、全日本よい歯の学校表彰も受け、平成11、12年度には文部省歯・口の健康づくり研究推進指定校となった。また、「花いっぱい運動」の活動にも力を入れ、平成3年には「花いっぱい運動モデル団体」の指定を受け、現在に至っている。さらにJRC活動に参加し、社会福祉協議会よりボランティア協力校に指定されている。

児童数	学年	1年	2年	3年	なかよし	4年	5年	6年	合計
	男子	11	11	11	1	15	14	11	74
	女子	14	11	10	0	10	10	10	65
	学年計	25	22	21	1	25	24	21	139

2 児童の実態と事業の必要性

本校の児童は、山や海に囲まれた豊かな自然の中で育ち、明るく素直である。学習面では「やってみたい」「認められたい」という前向きな姿勢で取り組む児童が多く、特に操作的・体験的な活動を伴う学習に高い意欲を示す。しかしながら、クラス替えのない固定化した人間関係の中で、次のような問題点が見受けられる。

- ・ 友達と本音で語り合ったり、自分の思いを十分伝えたりすることができず、自分自身や友達によさや個性に気づいていない児童が多い。
- ・ 話し合い活動では、自分の考えを積極的に表現し、みんなと話し合いながらよりよい考えを作り上げていくまでには到達していない。
- ・ 友達とうまくかかわることができず、互いに協力したり、高め合ったりすることを苦手とする児童がいる。

そこで、こうした課題を解決していくために、一人ひとりのよさや思いが生かされ伝え合う授業の工夫や、エンカウンターの手法を生かした授業・集会活動の工夫に焦点を当てた研修に取り組むことが必要であると考え。この『伝え合う授業』とは、「人の話を聞く力」「自分の考えを持つ力」「自分の考えを伝える力」「自分の考えを基に行動する力」の育成の場だと考える。そして、認め合い支え合う学級づくりの中でよりよい人間関係を育てていきたい。

3 取組の紹介

【1年次】

「構成的グループエンカウンター」を本校での人間関係づくりの中核として取り組むこととし、鈴峯短期大学・森洋介助教授を指導者として迎え研修に取り組んだ。特に1年目ということで、「構成的グループエンカウンター」に初めて取り組む職員がほとんどであったため、職員自身が色々な種類のエンカウンターを実際に体験する形で研修を行い、エンカウンターの進め方や留意点を研修していった。

(1) 具体的な取組内容

① 職員研修会

講義と実技研修



② 全校集会

縦割り班内での異学年間の人間関係づくりのため、秋の全校集会からエンカウンター的な要素を取り入れた。

- ・ 縦割り班で行うゲームをエンカウンターにおけるエクササイズと位置づけ、1～6年生が個々に活動するのではなく、相互にかかわり合って活動できるものを代表委員会で話し合って集会に取り入れた。

- ・ 縦割り班での振り返り活動をシェアリングの場として取り入れ、集会の中で、班のメンバーのよいところに向け活動の様子を班員全員で振り返りプリントにまとめ、集会の閉会式の中で発表した。



(2) 1年次の成果と課題

1年次は「構成的グループエンカウンター」とはどのような取組であるかということを経験者が体験的に研修することで、活動の流れや指導者の活動における留意点についての理解を深めることに研修の主軸を置いた。そして、本校ではどのような取組をすることが人間関係づくりにおいて有効であるか方向付けを行った。実践においては、集会の中にエンカウンター的な活動を取り入れたりと、学級活動や授業の導入等でショートエクササイズを取り入れたりと、学校内の教育活動に少しずつ意識的に研修したことを活用していったが、試行的な意味合いが強く、系統立てて活動を組み入れたり、1単位時間を使ってエクササイズからシェアリングまでの流れを作った取組はできていなかった。

【2年次】

2年次は前年次に行った構成的グループエンカウターの研修をもとに、鈴峯短期大学森洋介助教授の指導のもと、それを学級活動を中心とする授業の中にどのような形で取り入れていくかを授業研究を通して具体的に検証していった。また、人間関係の発達段階や学年の課題をふまえて、構成的グループエンカウターの手法を生かした取組を年間計画の中にどのように組み入れるとよいか研修し、学年ごとに「人間関係づくり年間プログラム」の作成を行った。

(1) 具体的な取組内容

① 中学年実践例

第4学年 学級活動 「瀬戸内海・島上陸作戦」

主 眼 限られた台の上に学級全員が乗るという活動を通して、友達のよいところを認め合い、クラスとしての一体感を深める。

準 備 体育用マット、跳び箱最上段6個、振り返りカード

学習過程

- ・ ウォーミングアップのゲーム(アドジャン) をする。
- ・ 「瀬戸内海・島上陸作戦」ゲームのルールを確認する。
クラス全員が跳び箱の上に乗し、みんなで5秒数える。
一人でもマットの上に落ちれば、最初からやり直す。
友達を非難する言葉が聞こえた場合も、最初からやり直す。
目標を達成したら、跳び箱の数を減らしてゲームを行う。
- ・ 「瀬戸内海・島上陸作戦」ゲームを行う。



- ・ 本時の活動について振り返る。

(シェアリング)

素直な感想を受容し合える雰囲気作りをし、成功した時の達成感だけでなく失敗した時もそれを乗り越えて声を掛け合おうとする姿勢にも目を向けさせる。



瀬戸内海・島上陸作戦 ふりかえりカード		
名前 _____		
1 今日の学習は楽しかったですか？		
楽しかった	まあまあ楽しかった	楽しくなかった
2 ゲームの時、友達と協力できましたか？		
協力できた	まあまあ協力できた	協力できなかった
3 今日の活動の感想を書きましょう。	<div style="border: 1px dashed black; height: 40px;"></div>	
4 今日の活動をして、クラスの人について気づいたことを書きましょう。	<div style="border: 1px dashed black; height: 40px;"></div>	

② 高学年実践例

第5学年 学級活動 「友達、大好き！」

主 眼 友達の考えを予想し、気持ちを押し量る体験をすることを通して、友達同士を
理解し信頼して助け合う態度を育てる。

準 備 ワークシート

学習過程

- ・ 「友達、大好き」のゲームのやり方を確認する。
友達同士で2人組を作り、10の質問について「自分について答える側」と「友達の答えを予想する側」に分かれる。
- ・ 交代し合って2回のゲームを行う。
- ・ 自分自身のことについて答え、発表する。
- ・ 友達を好きだと思う時はどんな時か考える。
- ・ 友達を大切にしたいと思う時はどんな時か考える。
- ・ まとめを聞き、感想を書く。(シェアリング)
子どもの表現や気持ちを肯定する。
発表しにくい場合は、机間指導をしたり、用紙を回収したりして紹介する。

10の質問

好きな食べ物、好きな動物、好きな色、きょうだいは何人、今ほしい物、好きなテレビ番組、得意なこと、好きな歌、一番熱中していること、宝物



(2) 2年次の成果と課題

「構成的グループエンカウンター」の手法を生かした授業実践の研究を通して、1単位時間を使つての授業の進め方や指導者の留意すべき点を、授業での具体的な場面ごとに森先生から指導を受けた。年間計画作りに向け各学年で積極的に実践が行われ、児童からも「エンカウンターは楽しい。次はいつやるの?」「日頃しない活動が友達と一緒にできることが面白い」といった感想が聞かれ、エンカウンターの活動が学級の中に定着し始めてきた。こうした実践の中で、次のことが課題としてあげられた。

- ・ シェアリングの時間を充実させることができず、児童が自分自身の活動や思いを振り返って表現していくことが十分にできなかった。そのため、児童にとっては楽しいゲームとしての時間に終わってしまったのではないかと。
- ・ 2年次は学級活動の中に取り入れることが中心になることが多かったが、学級活動で取り上げただけでは学級活動の年間計画での他の指導項目とのバランスがとれなくなるので、教科の中でいかにエンカウンター的な活動を取り入れ、どのように指導するかを研修する必要がある。
- ・ 本音での交流がエンカウンターの本質であるので、子どもに本音での交流をさせるためにも教師が本音を語らなくてはならない。
- ・ エクササイズを成功させようとする意識が教師の中に強くあるが、エンカウンターにおいてはエクササイズの成功が目的ではないので、もっと柔軟な取組が必要である。

【3年次】

(1) 具体的な取組内容

3年次は、2年次に作成した「人間関係づくり年間プログラム」の試行年度と位置づけ、各学年での実践の発表や構成的エンカウンターを取り入れた授業における指導上の留意点について、鈴峯短期大学森洋介助教授の指導のもと授業研究を通して研修を深めた。授業研究においては、前年度の研修が学級活動を主体としたものであったので、学級活動以外の授業の中でどのようにエンカウンター的な活動を取り入れていくかという視点で研修していくこととした。また、この試行によって明らかになる改善点をもとに年間プログラムの見直しを行った。

① 高学年実践例

第6学年 社会科学習 「歴史上の人物のまとめをしよう」

～人物当てクイズ「私は誰でしょう」～

主 眼 日本の歴史について関心を持ち、歴史上の人物を調べることによって日本の国の歩みについて理解を深める。また、友達と質問し合って日本の歴史上の人物を言い当てることを通して、相互の理解深め、かかわりを広げる。

準 備 歴史上の人物のカード、学習プリント

学習過程

- ・ 今まで学習してきた日本の歴史について、歴史上の人物を通して振り返る。
- ・ ゲームのルールを知る。
会う人一人につき一回の質問をし、答える側は「はい」「いいえ」の答えで返す。その答えをもとに自分の背中に貼られたカードの人物名を当てる。
- ・ ゲームを行う。
日頃接する機会の多い人に対しては後から質問し、日頃接する機会が少ない人から先に質問していき、なるべくたくさんの人とかかわれるようにさせる。教科書や資料集での確認はしてもよいが、なるべく短時間とし、友達からの情報収集を中心とさせる。
- ・ 本時の活動について振り返る。

(シェアリング)

面白い質問、心に残る質問、友達の様子
自分の行動など



背中に人物カードを貼る



背中の人物について質問する

② 低学年実践例

第1学年 国語科学習 「ことばであそぼう」

～ことばのクイズでなかよくあそぼう～

主 眼 自分達で作った「言葉のクイズ大会」を通して、言葉に対する興味関心を持ち、相手に分かりやすく話したり、出題されたクイズを正しく聞き取ったりすることができる。

準 備 学習プリント 文字カード ここがよかったねカード

学習過程

- ・ 本時の課題を確認する。
発表の仕方、話の聞き方
- ・ グループごとにクイズのお店を開く。
半分の3グループが先に発表し、他の児童は聞き手となる。
15分経ったら交代する。
- ・ 感想を話し合う。

(シェアリング)

友達のクイズのよかったところ

話し方・聞き方など

<班ごとのクイズ>

しりとり、言葉の迷路
なぞなぞかくれんぼ、文
字から言葉、クロスワ
ード、何と読むのかな



③ 特別活動実践例

同じ縦割り班にいながら異学年であると相手のことをよく知らなかったり、関心を持ってなかったりという児童の実態から、全校の児童がもっと互いを知り合うことができるようになったり、「〇〇ちゃんは・・・」と関心を持つきっかけにしたりできないかと考え、本年度から全校児童・職員の誕生日を紹介することにした。職員室前の掲示板を利用して月毎の誕生日の人を写真や簡単な自己紹介と共に紹介することにし、給食時の放送でも誕生日には、各児童の自己紹介文を紹介した。高学年児童の中には恥ずかしがる児童も見られるが、掲示されたプリントを興味深げに読んだり、放送で自分の名前を呼ばれることを心待ちにしている姿も多く見られる。

<自己紹介プリントの内容>

学年・名前

誕生日

好きな食べ物

将来の夢（職員は子どものころの夢）



4 3年間を通しての取組の成果と課題（まとめ）

「人間関係づくり」は、クラス替えのない単学級であるため学級内の人間関係が固定化しがちな本校において重要な課題であるとともに、子どもたちの生涯にわたる課題となるものであり、授業や特別活動、学校行事等で「人間関係づくり」を意識しながら実践を行えたことは意義があった。特に、授業研究や学級経営においては、“自己を見つめる場”“自己を表現していく場”“他者のよさや他者との違いを見つめる場”“互いにかかわりを持ちながら学習を進めていく場”ということ意識した取組ができたことは大きかったといえる。子どもたちは「構成的グループエンカウンター」のエクササイズやそれを取り入れた授業では生き生きとした表情を見せ、積極的に人と関わろうとしたり学級の友達に対して新たな発見をしたりして楽しく活動する姿が見られた。だが、人間関係には学級集団だけでなく、家庭・地域・スポーツ少年団・塾といった学校外の要因も大きく、この3か年間で目に見える形での成果をあげられたとはいえない。しかしながら、こうした取組を継続的に積み重ねていくことは、子どもたちにとって他者を受容し豊かな人間関係を作り上げていく素地となっていくものであると考える。

そこで、以下のことを「人間関係づくり」の今後の課題として考え、さらに研修を深めていきたいと考える。

- 人間関係に関しては学年における発達段階での課題とともに、個々の学級に所属する児童の抱えている課題もあり、いったん立てた年間計画をそのまま引き継いでいく形での実践では難しい面がある。そこで、その学年の児童の実態に合わせた学期ごとの見通しを立て、有効なエクササイズであるかどうか確認した上での実施が必要であり、実施したエクササイズでの実践資料を記録として残しておくことも大切となってくる。
- 授業実践においては、学級内での友達のよさを認め合うということができてきたが、それが学校生活への広がりへ十分に生かされなかったため、異学年の交流の中で互いの良さを認め合い尊重しあう活動を工夫する必要がある。
- 教科指導の中にエンカウンター的要素を取り入れる場合、授業のねらいを達成する上でも効果的なものもあったが、教科のねらいとエンカウンター上のねらいを両方を達成しようとして無理に組み込んでしまい複雑な授業の組み方になったものもあった。そこで、無理なくより効果的な方法でのエクササイズの取り入れ方や、エンカウンター的な手法を生かしたかかわりの場を持てる授業展開を考える必要がある。
- 年間計画の中に取り入れた活動だけでなく、エンカウンターの研修の中で習得したショートエクササイズを授業の導入や学級活動における雰囲気作り等に活用することも学級集団作り有効な手段であったが、年間計画の中に記載されているものではないので、どのようなエクササイズがどういった場面で有効であったかという資料を残しておくことが大切になる。
- シェアリングの場面では、自己開示・自己表現が十分できていない。エクササイズで体験したことを通して自分の行動を振り返り表現していく力をつけていく必要がある。この表現力については他の活動においても課題となっている。
- 研修の中で教師間でエンカウンターを体験したことが、図らずも教師の相互理解を深めていくことにつながった。そこで、今後も機会を設けエンカウンターの実践研修を兼ねた相互理解の場を設けて教師の人間関係も深めていきたい。

5 提案プログラム

(1) 第1学年 人間関係づくり「エクササイズカリキュラム」

校区内三つの保育園から入学してきた子どもたち同士や担任の先生との人間関係作りを中心とし、学校内の自分の所属感を持てる学級作りを目指すエクササイズを取り入れる。

学期	題材名	ねらい	方法	備考
一学期 ・新しい友達 ・友達となかよく生活する。 ・先生とのリレーション作り	めいしこうかん	○自分のことを紹介する名刺を交換し合い、自分のことを知らせると共に、他の友達のことを知る。	・名刺にプロフィールを書いて友達と交換する。	生活
	こおりおに	○友達とふれあうことによって、男女が仲よくかわり、人間関係を深める。	・おににタッチされたら、そのポーズでおおる。逃げ続けている子がお助けカードを渡して助ける。	体育
	ハートぴったり	○自分や友達のことを知り、仲よくしようとする気持ちをもつ。	・項目に対し何種類かの答えを用意し、自分の気分や気持ちに合ったものを選び、同じものを選んだもの同士で仲間作りをしていく。	学活
	ほめほめジャンケン	○友達や自分のよさに気づき、仲よく生活していこうという気持ちをもつ。	・ジャンケンの後、交互によいところを伝える。握手して別れる。	道徳
二学期 ・学級内での存在感・所属間をもつ。 ・自分や友達のよさを見つける。	みんなでポーン	○風船を落とさないように運ぶゲームを通して、協力することの大切さに気づく。	・両手をつなぎ、一定の距離を移動したり、何回続けられるかに挑戦する。	(体育)
	ふわふわ言葉とチクチク言葉	○言われるとうれしくなる「ふわふわ言葉」と悲しくなる「チクチク言葉」があることを知り、温かい言葉を選んで使う肯定的な関係作りをする。	・自分にとっての「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」を書いて発表する。ふわふわ言葉を使って日常場面をロールプレイする。	道徳
	みんなでわくぐり	○手をつなぎフラフープの輪くぐりをする中で、協力することの大切さやグループとしての一体感を感じる。	・6～8人組になり、手をつないで輪をくぐり次の人に送る。輪が一周したらその場の座る。	学活
	いいとこさがし	○友達のいいところを見つけて、伝えることで他者理解をする。	・友達のいいところを見つけてカードに記入する。カードを読んで、気づいたことを伝え合う。	学活
三学期 ・友人関係の輪を広げる ・自分自身の成長への気づき。	なんでもバスケット	○自分と同じ趣味や嗜好の友達がいることを知り、新しい友達の輪を広げる。	・フルーツバスケットのやり方で、じゃんけんバスケット(勝ち・あいこ・負け)すぎなもの、にがてなものバスケットをする。	(学活)
	わたしはだれでしょう	○1年間の生活を振り返りながら、お互いの成長を喜び合い、人とかかわることの大切さに気づく。	・「わたしはだれでしょう」のカードを見て、誰のカードか予想して解答用紙に名前を書く。	生活
	ありがとうメッセージ	○友達の小さな親切を見つけることと、認められる喜びを味わう。	・ありがとうのメッセージを一人一人に書いて渡す。	道徳

(2) 第2学年 人間関係づくり「エクササイズカリキュラム」

学級内での相互理解をさらに深め、友人関係の広がりをもたらし学級としての凝集性を高めるために、自分のよさや友達のよさに気づかせるエクササイズを取り入れている。

学期	題材名	ねらい	方法	備考
一学期 ・友人関係の話を広げる ・学級内の居場所作り	手あそび歌 *お弁当箱のうた *カレーライスのうた *おにのパンツ *キャベツの中から お願い！ドラえもん	○ 教師や友だちと、顔と顔を寄せて手と手、指と指を合わせて歌う事により、子どもと身も心も一つになる雰囲気を作り、それを感じることができる。 ○ 自分の思いや感情を自由に表現したり話したりすることで、不安や緊張を軽減することができる。	・ 教師の身体を使ったまねをする。 ・ ドラえもんに頼みたい事を考える。そして、それをワークシートに記入する。書いたものをもとに、教師と会話する。例えば、教師と共通したものがあれば取り上げ、「同じだね」と共感したり、分からないことを質問して説明させたり、くわしく語らせたりして緊張をほぐす。	(学活) 学活
二学期 ・友達を深く知る ・学級集団の確立	これからよろしくね ぼく・わたしの実りの木 こおり鬼	○ 友だちのことを改めて知る事を通して、友人関係の広げることができる。 ○ 友だちの良いところを見つけ、また、自分の良いところを友だちに見つけてもらうことにより、お互いが認め合い、助け合うことができる。 ○ 感謝する気持ちや助け合いの気持ちを培うことができる。	・ 友だちと名刺渡しゲームを行い、友だちの再発見をし、自分自身のことも知ってもらう【やってみて気づいたこと、感じたこと】 ・ 柿、りんご、ぶどう、どんぐりなど、秋の実のカードの中に、友だちの良いところを書き、友だちに渡す。友だちから貰ったカードを大きな木の書いてあるワークシートに貼りつける。 ・ 鬼にタッチされたら、そのポーズで凍る。まだ捕まっていない児童は、捕まった児童に「解ける」と言って、自分のカードを渡す。ゲームが終わったら、お礼を言ってカードを戻す。 【やってみて気づいたこと、感じたこと】	学活 学活 体育
三学期 ・自分自身の成長への気づき ・学級集団の完成	・ ロックマイソール ・ なべなべそこぬけ	○ 音楽に合わせて、みんなで楽しく表現活動を行うことにより、さらに友だちとの関係を深めることができる。 ○ 友だちと協力し合い、楽しく体ほぐしの運動を行うことを通して、相手のことを思いやることができる。	・ いろいろな動作を考え、リズムに乗って楽しく表現活動をする。 ・ 歌を歌いながら、手をつなぎ、ひっくりかえる。二人組から三人組へ・・・というように、人数を増やしていく。 【やってみて気づいたこと、感じたこと】	音楽 (体育)

(3) 第3学年 人間関係づくり「エクササイズカリキュラム」

友達と一緒に楽しめるエクササイズや身体接触をとまなうエクササイズを取り入れたり、友達への言葉かけについて振り返る活動を取り入れたりすることで、友達について少し深く考えられるようにしている。

学期	題材名	ねらい	方法	備考
一学期 ・学級内での安心できる居場所作り ・固定しがちな関係の解体	友だち発見クイズ！	○今まで一緒に過ごしてきた友達のことをもう1度見つめ直すことを通して、友達に対しての既成概念を崩す。	・あらかじめ記入しておいた「自分発見カード」の人型を見てだれのものか予想し、「友だち発見カード」に書く。	学活 理科 道徳 学活 学活
	同じ形を見つけよう	○友だちとものものの見方の違いを肯定的にとらえ、お互いの理解を深め合う。	・グループで、学校敷地内（校舎外）に出て、自然物の中からワークシートに書かれているのと同じ形を見つける。	
	言葉のまほう (ふわふわ言葉とチクチク言葉)	○普段の言葉を分けていくことで言葉が引き起こす感情に気づき、自分たちのクラスの普段の言葉を振り返る。	・普段何気なく話しているときの言葉と、言われたらいやな気持ちのする言葉と、うれしい気持ちになる言葉に振り分け、黒板に書き出していく。それを実際に声に出して言い合う中で、そのときの感情に気づく。	
	人間コピー機 無人島SOS	○自分の持っている情報や思いを伝え合い、協力する喜びを知る。 ○話し合いを通して、友だちの多様な考えを知り、お互いを認め合う。	・グループで行う。グループ内の1人が、別室に張られている1枚の絵を見てきて、グループ内の児童に伝え、画用紙にそっくり同じ絵を描く（言葉なし・動作あり）。 ・無人島で生き延びるために大切と思うものを8つ順にあげる。その後、自分の考えをグループの中で、話し合う。	
二学期 ・自分や友達とのよさを活かすことへのよさを体感 ・思いやりの心の育成	トラストアップ	○2～8人組になり、タイミングを合わせて立ち上がることで、相手を意識したり、グループで協力することの大切さに気づく。	・2人組のペアで、座った姿勢から立つ「トラストアップ」の技に挑戦する。(背中合わせ・横向き向かい合い) 達成されれば、ペアの人数を増やして挑戦する。	(体育) 学活 算数 学活 学活
	「あっぱれ！」ほめあげ大会	○運動会という行事を通して、友だちががんばっていたことなどを見つけ友達や自分自身に対して肯定的に評価しようという心情を育てる。	・4～6人のグループで実施。グループ内の自分以外の人についてほめることをあっぱれカードに2つずつ書いて、相手に渡す。もらったカードを読み、自分もそうだと思えば○を、そうかなと思えば△を自己評価欄に記入し、○について発表する。	
	こんな形、作れるかな？	○友だちと協力して課題を解決することで、友だちや自分のよさに気づく。	・2人組で協力して、三角形のカードを4枚組み合わせて、指定された形を作る。課題が達成されるたびに、難易度をあげた課題にしていく(組む人数を増やす/形を変える等)。	
	島上陸大作戦	○クラスの全員が協力する体験を通して、友だちと力を合わせる楽しさや自分たちのクラスのよさに気づき、クラスの一	・クラス全員が跳び箱の上に乗る、みんなで10秒数える。1人でもマットの上におちれば最初からやり直す。目標を達成したら、跳び箱の数を減らす。	
三学期 ・学級の凝集性を高める成長への気づき	あなたの○○がすきです	○学習発表会という行事を通して見つけた友だちのいいところを、その人に伝え、自分も友だちから言ってもらえることで、自尊感情を高める。	・二重の円を作り、2人が向かい合ってペアを作る。ペアのいいところを交代でたくさん言い合う。一定時間ごとに時計回りに動いて、ペアを変えていきながら行き、最後に感想を分かち合う。	学活 学活
	別れの花束	○友だちのよさを見つけることで他者に対する肯定的な感情を育てるとともに、お互いの気持ちを交換して自分の成長を確認する。	・宛名が書かれている手紙用紙に、その人に感謝したいことや気持ちを書き、本人に届ける。(あらかじめ教師が宛名を書いたものを用意し、全員にメッセージが行き届くようにする。)	

(4) 第4学年 人間関係づくり「エクササイズカリキュラム」

同一学級での学習集団の4年目に入り、学級内の人間関係の固定化や友達に対する固定概念が育ち始めてくるため、友達のことを見つめ直し肯定的に受け止めるエクササイズや友達と一緒に課題を解決し協力することの大切さに気づくエクササイズを取り入れている。

学期	題材名	ねらい	方法	備考
一学期 ・友達や先生とのリレーション作り ・学級内の居場所作り	わたしはだあれ	○一緒に過ごしてきた仲間をもう一度見つめ直すとともに、自分自身と友達についての理解を深めるとともに、既成概念を外し、新しい一年間への思いを深める。	・カードに書かれた項目(自分の良さ、できること等)をもとに、クラスの誰かを考え、解答用紙に書いていく。	学活
	みんなでポーン	○ペアやグループで協力して成し遂げることで、協力することの大切さに気づく。	・何人かで手をつなぎ、手を離さないで目的地まで風船をつきながら移動する。	(体育)
	レッツダンス	○グループでひとつの表現を作り上げていく中で、心や体を開放する喜びを感じるとともに、友達との意見の交換で表現に広がりが出ることに気づく。	・グループで曲に合わせて、工夫してダンスを作り上げる。	体育
	聖徳太子ゲーム	○相手の言っていることに耳を傾け、注意深く聞こうとする。	・同時に数人から発せられる言葉を、友達と協力して聞く。	学活
自分への手紙	○自分を肯定的に総括することで自分の成長に気づく	・自分への手紙を書き、グループやクラスの人に紹介する。	学活	
二学期 ・学級や友達を深く知り、大切にしようとする ・学習集団の確立	人間コピー機	○自分の思いを伝え合う活動を通して、相手の思いをくみ取ろうとする。	・一枚の絵をグループ一人ずつ見に行き、覚えてそっくりの絵をしあげる。(言葉有り・言葉無し)	学活
	いじめって何?	○どういうことがいじめか考える活動を通して、人それぞれ受け止め方が違うことに気づき、自分の行動をふり返る。	・いろいろな行動を書いたカードは、いじめにあたるかグループで話し合う。	道徳
	紙様お願い	○グループでの共同作業を通して、友達の良さや自分の関わり方に気づく。	・印刷用の用紙三枚をどうしたらできるだけ高く立たせることができるか考える。	図工
	輪・棒を使って	○相手とのタイミングを合わせて棒や輪を動かすことで、互いに協力することの大切さや一体感を感じる。	・二人組やグループで棒や輪を使って、いろいろな動きに挑戦する。	体育
ことばのクリスマスプレゼント	○友達の良さを見つけ、言葉のプレゼントとして伝えることで、仲間の良さに気づき、自己理解を深める。	・普段あまり話さないようなクラスの友達に、その人の良さが分かる言葉をカードに書き渡す。	学活	
三学期 ・学習集団の完成 ・自分自身や学級の成長への気づき	わたしのちかい	○「新年の誓い」を紹介し合うことで、友達から刺激を受けたり、さらに自分の考えを深めたりする。	・新年の誓いを書いたプリントを持って、自由に歩き回り、出会った人に、今年の目標とそのわけを話す。	学活
	くらしの中の和と洋	○話し合い活動を通して、感じ方や考えの違いに気づき、認め合おうとする。	・「和」と「洋」について学んだことをもとにして、話し合いの話題を決め、グループごとに話し合いを行う。	国語
	がんばったあなたへ	○学習発表会という行事を通して自分自身の成長に気づき、自分や友達を肯定的に評価しようとする。	・グループの一人ひとりについて、がんばったことをグループ全員が一人一言ずつ誉めていく。自分ががんばったこと、うれしかったことを順番に話す。	学活
	4年・思い出ビンゴ 関連～国語 「年間の思い出を紹介しよう」	○一年間の思い出を分かち合うことで、お互いの心のつながりを強め、新学年に向けて羽ばたこうとする心のステップ作りをする。	・学級の一年間をふり返り、良かった思い出や大切な思い出をグループでビンゴカード形式に書き、発表し合う。	学活

(5) 第5学年 人間関係づくり「エクササイズカリキュラム」

男女としての意識やグループとしての意識がより固定化するので、その概念崩しを行うエクササイズやグループ・ペアを作って活動するエクササイズを取り入れている。

学期	題材名	ねらい	方法	備考
一学期 ・リレーション作り ・友人関係の話を広げる ・学級内の居場所作り ・凝集性を高める	質問じゃんけん 手つなぎ風船バレー こんな形作れるかな	○新しい友達の名前や好きなもの、苦手なものなどを質問することで互いに認め合える雰囲気作りをする。 ○友達と風船を落とさないようにすることによって協力の心を育てる。 ○友達と協力して課題を解決することにより、一人ではできないことも二人で知恵を出し合って解決していけることを体感し、楽しむ。また、解決していく過程で、友達の良さや自分の良さに気づく。	・二人組またはグループでじゃんけんをし、勝った方が質問をし、それに答えていく。 【やってみて、質問する時、答える時、わかったこと、うれしかったこと】 ・5～7人程度で手をつないで輪を作り、手を離さないで風船を落とさないようにつく ・二人組になり、四つの四角形を組み合わせて、三つの図形を作る。①正方形②平行四辺形③穴あき正方形 【二人で難しかった点、苦労した点、工夫した点などを話し合う。互いに話し合ったことを紹介し合う。】完成したものを台紙に張り、感想を書く	学活 体育 学活
二学期 ・友達を深く知る ・学級集団の確立	鉛筆対談 友達大好き	○黙って相手と向かい合うことで、普段何気なく過ごしていたことを明確化して相互理解を深める。 ○友達の考えを予想し、気持ちを推し量る体験をすることを通して、友達同士の理解、信頼し合う態度を育てる。	・声で会話する代わりに、文で会話する。限られた時間内に文を書いて会話をする。【終了後やってみて思ったことを発表する。連休明けや行事の前後に効果的】 ・友達同士で二人組を作る。10の質問について、自分について答える側と友達の答えを予想する側に分かれる。交代して二回目のゲームをする。 【やってみて 友達を好きだと思ふ時、友達を大切にしたいなと思ふ時】	学活 学活
三学期 ・学級集団の完成 ・自分自身の成長への気づき	この指とまれ ミラクルマット	○自分の好きなもの、趣味、趣味が似ている人を見つけたり、人との違いを知ることで自己理解や他者理解を深める。 ○助け合う活動を通して、友達の良さに気付いたり、友達に認められる喜びを体験する。学級内での自己存在感を高め、だれに対しても思いやりの心を持って接しようとする態度を育てる。	・テーマに合うものから一つ自分が良いと思うものを決める。自分と同じものを選んだ仲間を見つけ集まり、手をつないで座る。集まったメンバーで理由を言う。 【やって気付いたこと、感じたこと】 ・8人組を作る人数より2枚少ないミラクルマットを使って川に落ちないようにグループ全員が向こう岸まで渡る。ただし、マットは人の体に触れていないと沈んでしまう。(目隠しをする人、足が使えない人、手が使えない人など、グループの半数にハンディを付ける。向こう岸に着いたらハンディを交代してもどってくる。)【してもらったことを中心に感想を話し合う。】	学活 学活

(6) 第6学年 人間関係づくり「エクササイズカリキュラム」

最高学年としての活動を通しての成長や、卒業を前に6年間の歩みを振り返るエクササイズを2・3学期に取り入れている。

学期	題材名	ねらい	方法	備考
一学期 ・友達や先生との居場所作り ・学級内の居場所作り	いいとこさがし トランスウォーク (道徳・共に生きるために) 無人島SOS (聞き合い活動～「訴えたいことを話そう」導入) 鉛筆対談 (ファックスやメールを利用しよう) 私は誰でしょう	○一緒に過ごしてきた仲間をもう一度見つめ直すとともに、自分自身と友達についての理解を深めるとともに、既存概念を外し、新しい一年間への思いを深める。 ○思いやりやさしさ、人に対して自分がどんな接し方をしているか振り返る。 ○聞き手として、色々な考え方があることに気づき、友達の意見を大切にしていこうとする気持ちを高める。 ○限られた時間内、黙って相手と向き合うことで普段何気なく過ごしていたことを明確化して、相互理解を深める。 ○歴史上の人について関心を持ち、自分の持つ知識を質問の形に変えながら推理していく中で、リレーションを深める。	・個人名の書かれたカードを時間を決めて順に回していき、手元に来た人の良いところをカードに書いていく。 ・二人組を作り、一人は目をつぶり口もつぶる。目を開けている者が目的地まで誘導する。 ・無人島で生活するために必要なものの例が書かれたワークシートから最も必要だと思う物を三つ選び、グループ内でお互いの意見を聞き合う。 ・二人組になり、声で会話する代わりに文で会話をする。 ・歴史上の人物の名前の書かれたカードを背中に貼り、色々な人に「はい」「いいえ」で答えられる質問をしていく。	学活 (道徳) 国語 国語 社会
二学期 ・学級や友達を深く知り、大切にしようとする ・学級集団の確立	二学期のめあてを 持とう (めあてビンゴ) がんばったあなたへ トラストアップ クリスマスツリー	○2学期の自分のめあてや友達のめあてを確かめ合うことで、一緒に頑張り伸びていこうとする気持ちを深める。 ○運動会という行事を通して、自分自身の成長に気づき、自分や友達を肯定的に評価しようとする。 ○相手とのタイミングを合わせて棒や輪を動かすことで、互いに協力することの大切さや一体感を感じる。 ○友達の良いところを認め合い、クラスとしての一体感を深める。	・2学期に頑張ろうと思っていることをプリントの枠の中に書いていく。ビンゴの要領でひとつずつ発表していく。 ・グループの一人ひとりについて、がんばったことをグループ全員が一人一言ずつ誉めていく。自分ががんばったこと、うれしかったことを順番に話す。 ・二人組、四人組、八人組と人数の変化をつけながら、色々なやり方で立ち上がる。 ・班にひとつずつ台を配り、教師の合図で一人ずつ台に乗り最後の人が乗ったところで、30秒数える間みんなが乗っていられたら合格。	学活 学活 (体育) 学活
三学期 ・自分自身や学級の成長への気づき ・学級集団の完成	わたしのちかい コマーシャルを作ろう 私へのメッセージ 別れの花束	○「新年の誓い」を紹介し合うことで、友達から刺激を受けたり、さらに自分の考えを深めたりする。 ○自分の心の中や感情を探求し、自分自身への肯定的な思いを持つ ○6年間の小学校生活の中で、自分を見つめてくれた物や人の視点に立って自分を見つめ直すことで、たくさんの手助けがあった今自分があることを再確認する。 ○これまでの小学校生活をふり振り返り、学校・学級・級友への感謝の気持ちを確かめる。	・新年の誓いを書いたプリントを持って、自由に歩き回り、出会った人に、今年の目標とそのわけを話す。 ・自分についてよく考えて、隠れた才能や多の人にもっと知ってほしいことなどを文章・イラスト・写真を使ってPRする。 ・学校の中で自分を見守ってくれた物や人からの卒業メッセージを想像して書く。 ・卒業を前に今までお世話になった感謝の気持ちを言葉にしてクラスの友達に贈る。	学活 図工 国語 学活